

311 ゼミナール

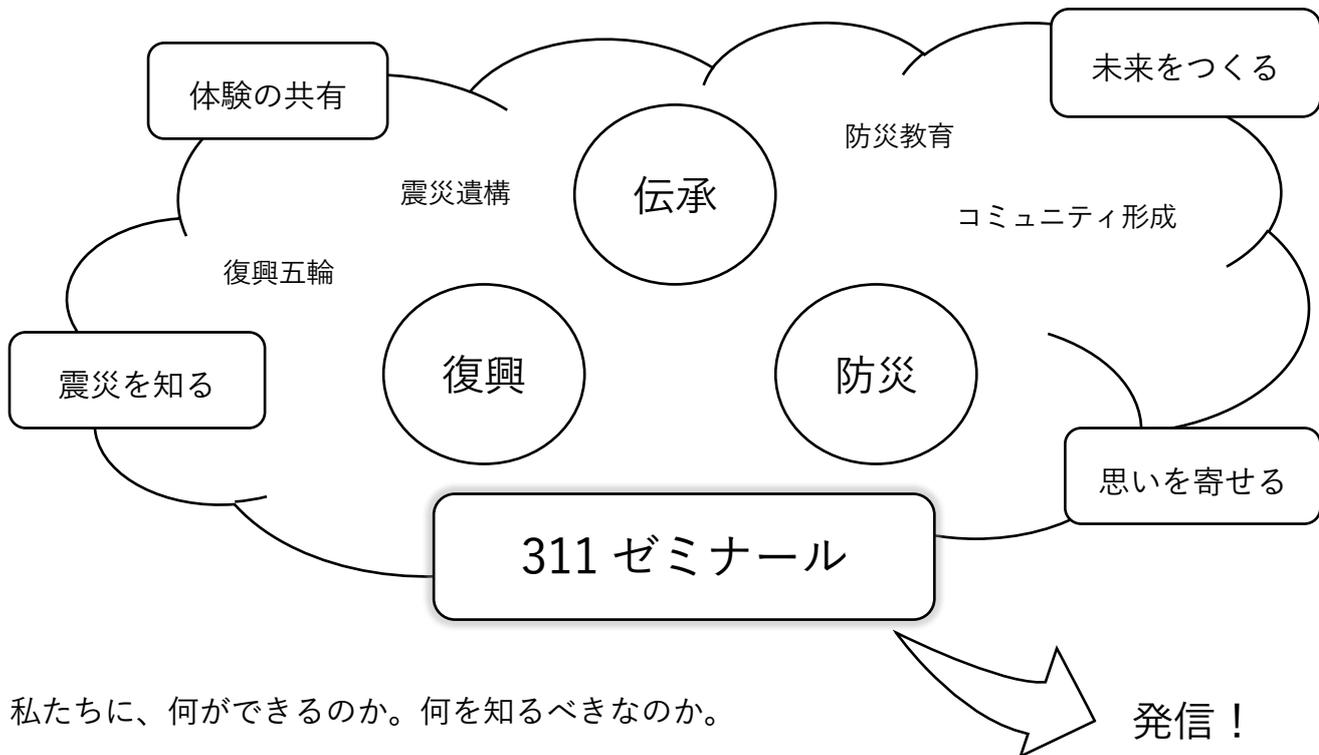
担当：武田 真一 特任教授・小田 隆史 准教授

【 311 を見つめる、自主ゼミを開講します。 】

あなたにとって「311」は、どんな存在ですか。

宮教大の学生として、いろんな体験や思いを、心に抱いているあなたへ。

そのモヤモヤを、みんなで見つめる場所、つくりました。



私たちに、何ができるのか。何を知るべきなのか。

あなたの「311」から、私たちの「311」に。

そのエネルギーがゆるやかにつながり、世界を少しでも変える力になりますように。

日程： 月2回程度（木／金のいずれか・参加者と相談します）

場所： 防災教育研修機構 1F 学生ミーティング室

キックオフ MTG 4/25(木)・26(金) 12:15～（昼食持参可）

連絡先： 022-214-3296・i18078@students.miyakyo-u.ac.jp（高見）

まずはキックオフ MTG へ
お気軽にお越しください！
お待ちしております♪

「いのちを守る教員」養成

新年度宮教大が研修機構

宮城教育大（仙台市青葉区）は新年度、災害対応力を備えた教員を養成するための拠点となる教育研修機構を新設する。東日本大震災の被災地で唯一の教員養成単科大学として、地元や全国の学校現場に

災害対応力を強化

新機構は既設の「防災教育ター」を改組する形で発足。育未来づくり総合教育センターとさせる。外部から招く人材

震災の教訓を伝承する責務があることを重視。石巻市大川小の津波による犠牲なども踏まえ、命を守る防災を重点に学生や現職教員への働き掛けを強化する。

のほか、兼務や客員教員を含めて十数人の教職員を配置する。改組と採用に必要な費用が文部科学省の新年度予算に「機能強化促進」

のほかに、兼務や客員教員を含めて十数人の教職員を配置する。改組と採用に必要な費用が文部科学省の新年度予算に「機能強化促進」

項目として盛り込まれた。「311のちを守る教育研修機構」の看板を掲げ、震災の教訓に基づいて学校現場で児童生徒の命を守れ

る教員を養成する。災害時に自分や家庭、地域の命を守る。ともに生き抜く力を備えた子どもを育てる姿勢を明確にする。現職教員を対象にした既存の被災地研修や教職大学院プログラムも強化し、南海トラフ巨大地震など警戒地域の教育委員会と連携して受け入れを増やす。教員免許更新講習でも防災関連項目を充実させる。

連携協定を結ぶ東北大災害科学国際研究所と共に教育研修の習熟度を評価する手法も検討。震災教訓の伝承、学校防災に意欲を持つ学生による自主ゼミの新設や地域対象の公開講座の開催も予定している。

被災地の大学では、岩手大教育学部が災害対応も踏まえた学校安全学を新年度から必修化する。震災8年を迎えて風化が懸念される中、次世代への伝承も視野に入れた踏み込んだ取り組みが教員養成系で目立つ。



宮教大の村松隆学長は「震災後に防災教育の強化に取り組んできたが、十分とは言えなかった。防災力向上は全ての教員に不可欠な責務。震災教訓を伝え継ぐ全国の教育研修拠点を目指す」と話している。

防災教育研修機構
311 いのちを守る教育研修機構
ってどんな場所？

★旧「防災教育未来づくり総合研究センター」が今年4月 リニューアルしました！



- 28：萩朋会館 8：2号館 11：5号館
- 1：管理棟 3：図書館 2：防災教育研究機構

311 ゼミナール アドバイザー：
特任教授 武田 真一先生

1959年 宮城県栗原市生まれ。
1981年 河北新報社入社。報道部、福島総局、東京支社編集部、盛岡総局等に勤務し、2009年から12年まで報道部長。東日本大震災時の取材部門の責任者として、震災翌日の新聞を通常通り発行するなど地元紙としての使命を果たすことに関わった。編集局次長、論説副委員長を経て、2016年より防災・教育室長、2019年本学着任。防災・教育室は、震災伝承と防災啓発を専任で担当する新設部署で、巡回ワークショップ「むずび塾」開催などを通して「いのちと地域を守る」誓いの発信を続けている。2015年4月に発足した産学官民・報道機関の連携組織「みやぎ防災・減災円卓会議」（90団体登録）の世話人としても活動し、被災地初の教訓伝承や防災啓発の強化に取り組んでいる。